

JASPIC SPI 2020 発表資料

品質向上にむけた人材育成への取り組み事例 ～作業品質分析検討会のご紹介～

2020年 10月 14日

NECソリューションイノベータ (株)

後藤 淳



Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という
社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる
持続可能な社会の実現を目指します。

自己紹介

■ 名前

■ 後藤 淳（ゴトウ ジュン）

■ 所属

■ NECソリューションイノベータ
品質・プロセス統括本部 東北技術支援グループ

■ 立場

■ 官庁自治体に向けSIを担当している事業部のPMO

- ・ プロジェクト審査
- ・ ラインへの円滑な業務遂行支援
- ・ ラインメンバの育成・指導（企画立案・遂行）

■ 補足

■ 担当事業部は、SE時代の在籍組織。現在、プロジェクト審査も担当しており、在籍メンバ・各グループの状況を熟知していることから、十分にコミュニケーションが取れる状況。
そのため、本施策をスムーズに運営できている。

品質向上にむけた人材育成への取り組み事例

1. NECソリューションイノベータ 会社概要
2. 東北支社の概要
3. 当時の事業部長の思い
4. 施策実施ロードマップ（計画）
5. 教育に期待する効果
6. 集合教育におけるメリット
7. 教育参加において効果を高める策の検討
8. 開催上の工夫
9. 開催テーマ：品質分析力
10. 施策実施ロードマップ（1st / 2nd 実績）
11. 開催テーマ：品質分析力 アンケート結果
12. 開催テーマ：作業ミス撲滅 3rd
13. 施策実施ロードマップ（3rd 実績）
14. 開催テーマ：作業ミス撲滅 4th
15. 副次的効果
16. 振り返り
17. 今後について（5th 以降の遂行に向けて）
18. 考察

1. NECソリューションイノベータ 会社概要

NECグループの社会ソリューション事業をICTで担う
中核ソフトウェア会社として、社会やお客様とともに、先進技術と
イノベーションで新たな価値を創造し、サステナブルな社会を実現する

事業領域

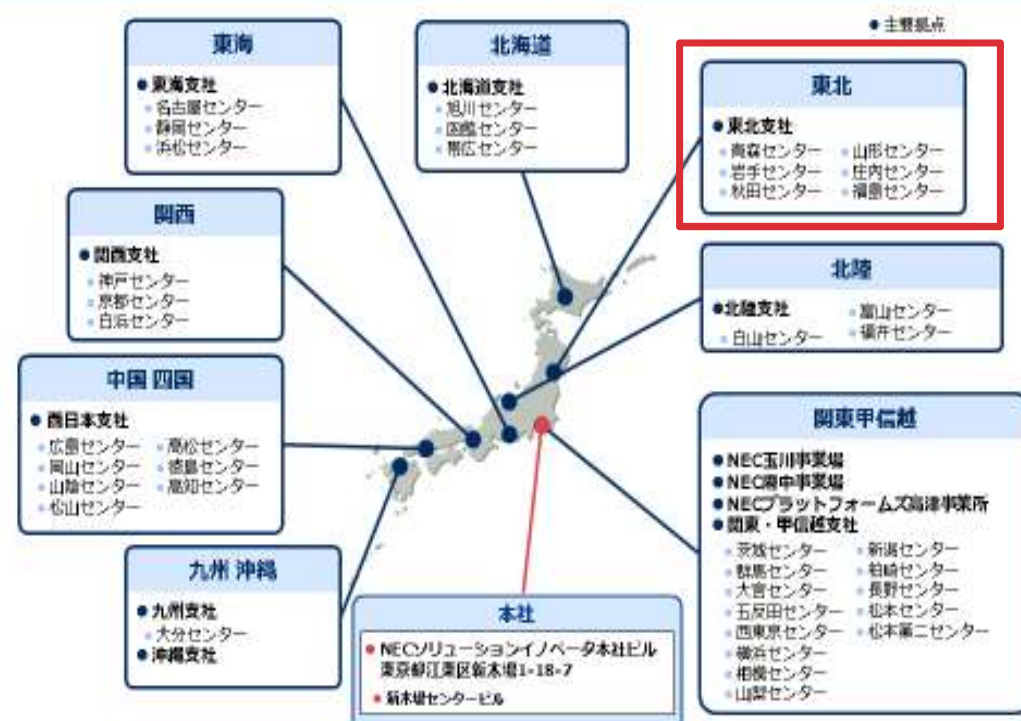


AI : Artificial Intelligence (人工知能) の略。高度な画像、音声、自然言語処理などのコンピュータプログラムを用いた科学と技術。
IoT : Internet of Things (モノ) の略。様々なモノがインターネットに接続され、相互に通信する仕組み。

【事業内容】

- ・ システムインテグレーション事業
- ・ サービス事業
- ・ 基盤ソフトウェア開発事業
- ・ 機器販売

事業所一覧



2. 東北支社の概要

<事業／組織>

★地方自治体	4グループ
★官公庁	2グループ
民需・金融	7グループ

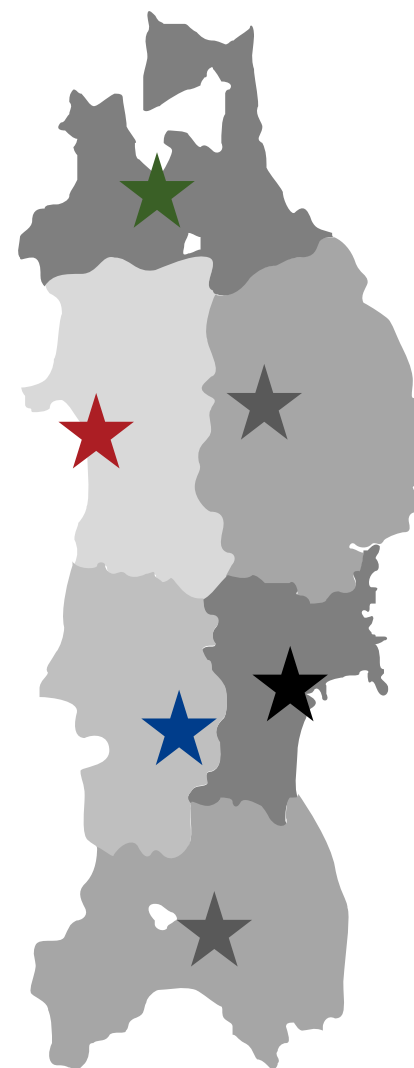
<拠点（各センター）との距離>

所在	在籍比率	拠点までの距離
仙台	60%	
青森	27%	362km
秋田	7%	256km
山形	6%	64km

自治体官公庁メンバー在籍、岩手、福島は在席無し

<状況>

東北支社在籍者で、交流する機会のない
社員が存在、コミュニケーション機会確保が必要

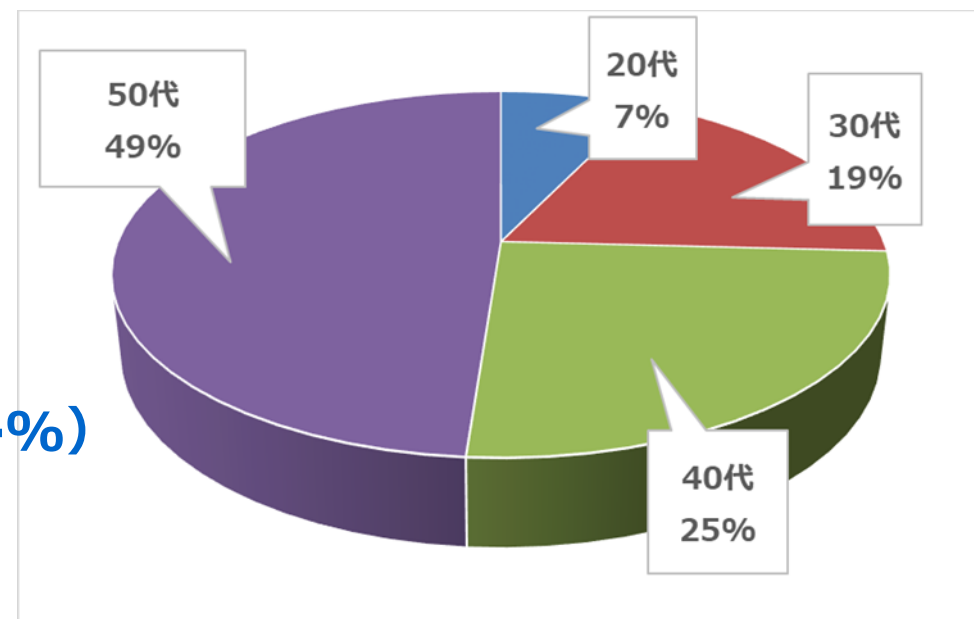


2. 東北支社の概要

<要員構成比率の課題>

世代	構成比率
20代	7%
30代	19%
40代	25%
50代	49%

高齢化（40代以上が74%）



<状況>

**今後会社を担うべき若手層の構成比率激減
ノウハウの継承が急務**

3. 当時の事業部長の思い

**「品質の良し悪しは
お客様の評価で決まる」
を再認識！！**

3. 当時の事業部長の思い

『思い』

「当たり前品質」と
「魅力的品質」にこだわる

さらなる顧客満足(品質)向上へ

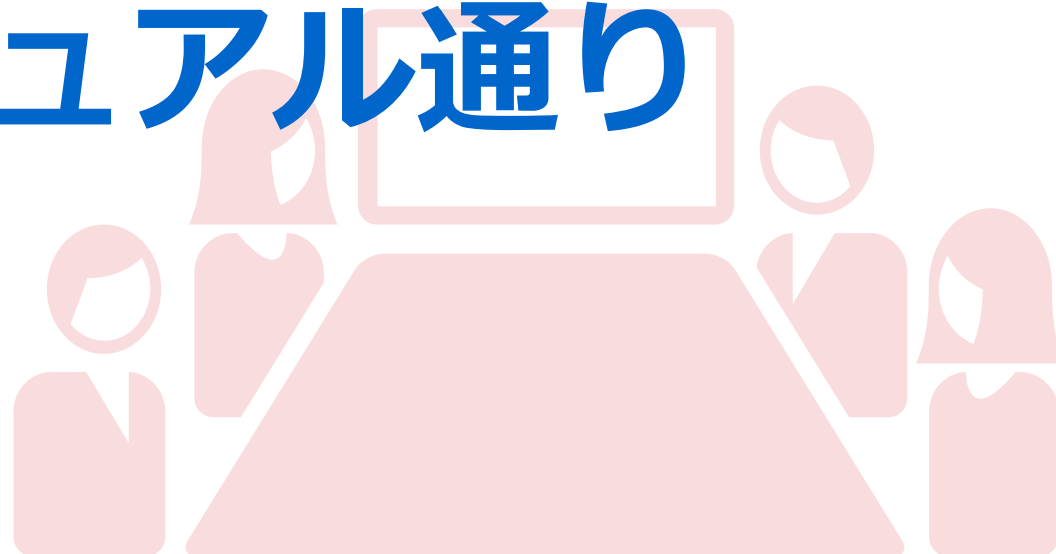
プロジェクト審査会

- ・プロジェクト遂行妥当性について組織として保証する場
- ・プロジェクトは見積/計画/体制/品質/リスクなど、問題なく完遂できるか、QCDを根拠に説明
- ・事業部長は、遂行上の課題や問題が無いか
を、組織として保証可否判断する場

3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

プロジェクト審査会での
説明がマニュアル通り



3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

プロジェクト審査会での
説明がマニュアル通り
→ 遂行への自身の考えを！



3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

リスクへの周到な対策立案と
準備が不十分



『思い』に至った背景

リスクへの周到な対策立案と
準備が不十分

→いかに発生させないか？
どう対処するか？準備を！

3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

審査会での説明者が
ベテラン化（マンネリ化）



3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

審査会での説明者が
ベテラン化（マンネリ化）
→ 若手の積極的登用を！
（経験値、遂行意欲向上へ）

3. 当時の事業部長の思い

『思い』に至った背景

審査会は避けたいイベント
責められたくないという意識



『思い』に至った背景

審査会は避けたいイベント
責められたくないという意識
→ 組織で責任担保・合意する
場であることを理解！



3. 当時の事業部長の思い

『思い』の実現のために

**プロジェクト目標として
何を達成したいのか
メンバーで共有、思いを込めて
遂行すべき！**

3. 当時の事業部長の思い

『思い』の実現のために

お客様に喜んでいただく！

迷惑をかけない！

そのために

何ができるのか！

3. 当時の事業部長の思い

『思い』の実現のために

**審査会に若手も参加
プロジェクトメンバーとしての
経験値up
遂行意欲向上へ！**

3. 当時の事業部長の思い

『思い』の実現のために

**プロジェクト審査会の意義を
トップから周知！**

(トップとのコミュニケーション)

実現のための取り組み

「当たり前品質」にこだわる

- ・ 品質を担保(語れる)できる
組織風土醸成(底上げ)
- ・ 品質データ収集・分析・対策
サイクル定着(改善活動化)

3. 当時の事業部長の思い

実現のための取り組み
会社組織の

「当たり前品質」にこだわる

内なる力

品質を担保できる組織風土醸成

品質データ収集・分析！対策

サイクル定着(改善活動化)

3. 当時の事業部長の思い

実現のための取り組み

「魅力的品質」にこだわる
お客様視点での品質

3. 当時の事業部長の思い

実現のための取り組み
**社外に向けた
「魅力的品質」にこだわる
組織の力
お客様視点での品質
として！**

4. 施策実施ロードマップ（計画）

1st

品質を担保(語れる)組織風土の醸成(底上げ)

⇒ 品質分析資料の理解と分析、分析手法を学習する

2nd

品質データの収集/分析(対策)サイクルの定着

⇒ 品質会計(※)データから、品質状況を分析し、課題と対策を掘り下げる

(※) NECの品質管理手法

**会社組織の
内なる力として！**

4. 施策実施ロードマップ（計画）

社外に向けた 組織の力として！

3rd 顧客満足（品質）向上

⇒ 作業ミス低減・撲滅を実現し、顧客に迷惑をかけない
作業品質実現を考える

5. 教育に期待する効果

<技術面>

- **品質を担保**できる(語れる)組織
風土の醸成（底上）、品質データの
収集／分析／対策サイクルの定着
- プロセスにこだわり、**作業ミスの
低減・撲滅**を通し、さらなる
顧客満足（品質）向上を追求する

5. 教育に期待する効果

<資質面>

- ・ **自律性・主体性を発揮**する
SEの意識醸成

※自律性：言われたことを言われたとおりに
やるだけではなく、自分で考え、
自分で自分を管理して仕事を進める
主体性：何をすべきか決められていないことを、
自分の意思で決断し、行動すること

5. 教育に期待する効果

<全般>

- ・ 継続開催による**長期育成推進**
(啓蒙、再周知の機会)

6. 集合教育におけるメリット

<メリット>

- ・ 集合形式のため**多人数の参加**が可能
- ・ 準備資料をもとに**定時間での遂行**可能
- ・ **あらかじめ整備されたカリキュラム**で開催可能

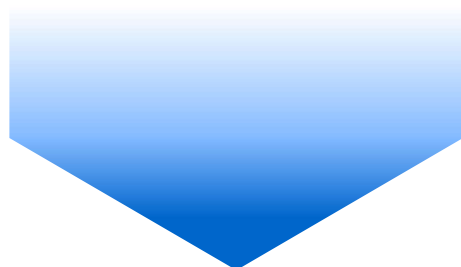
7. 教育参加において効果を高める策の検討

<デメリットとその解消策>

① 緊張感が希薄、一方通行の説明



参加意識を高め自身の考えを発言できる雰囲気



自己紹介でのアイスブレイク
少人数チームでの自由な検討
課題の事前提示（個人での事前検討）

7. 教育参加において効果を高める策の検討

<デメリットとその解消策>

②受講者の**理解度の把握困難**



自身の理解度・考え方に関し**他者から意見**をもらう



全員参加,発言の**ディスカッション形式**
自身と他者の**価値観共有**

7. 教育参加において効果を高める策の検討

<デメリットとその解消策>

③参加者の**学ぶ意識は本人次第**、義務感で参加も



他者との意見交換で、**自身の考えの発信**を楽しむ



自身の考え方に**共感・意見**してもらおう
やりがい

7. 教育参加において効果を高める策の検討

<デメリットとその解消策>

④ 学ぶ内容に広がりがない

(参加者間のコミュニケーション少ない)



部門内外、他業種担当者との**交流**を実現
経験豊富な先輩との**意見交換機会**に触れる



他業種における**経験談や価値観の相互交流**
自分に無い経験値の吸収と**気づきの機会**

8. 開催上の工夫

<開催方針>

- ・ 3～4名を1チーム
→ **自身の意見を話しやすいチーム編成**
- ・ 1開催 3～4チームでのディスカッション形式
→ **他チームとの間で意見交換できる形態**
- ・ 全員での積極的な意見交換
→ **発言を誘導（ファシリテーション）**
- ・ 開催(拘束)時間は、約2h
→ **業務への影響最小化**（事前課題制）
- ・ チーム構成は部門横断、役職混在
→ **顔合わせ、心合わせ**の機会提供(**社員同士の交流**)
- ・ 経験者から未経験者へのOJT
→ **未体験プロジェクトの疑似経験**

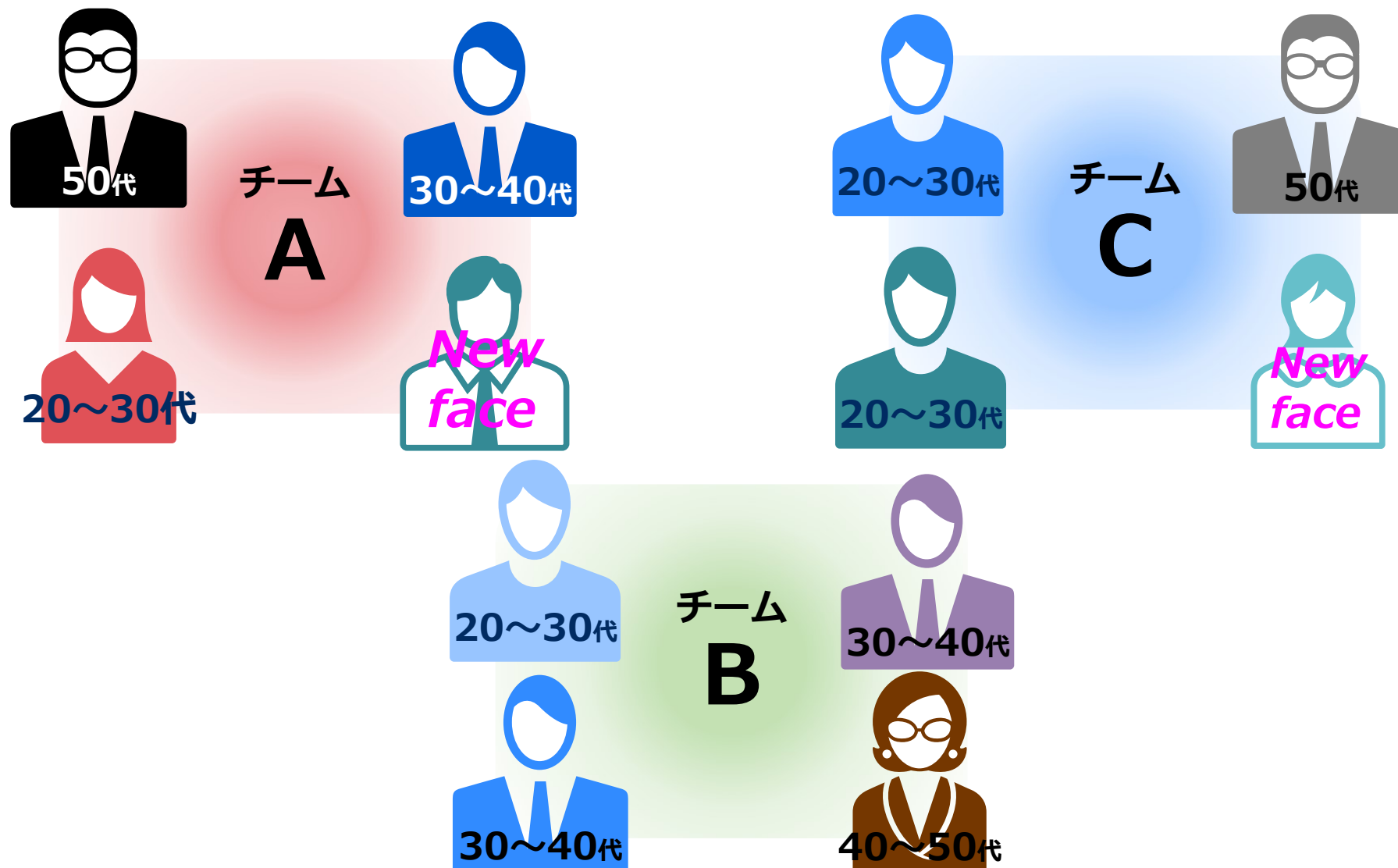
8. 開催上の工夫

< 検討会運営ルール (冒頭で周知) >

- ・ 定性的解答のみではなく、**定量的根拠も明示**
- ・ 一つの事例の**分析・検討はチーム全員で**
- ・ **代表チームが**障害事例案件の分析資料を**発表**
- ・ **発表者は誰でも可** (役職、経験問わず**公平選出**)
- ・ 質疑・意見交換時、特に**未発表メンバには積極的な発言を**

8. 開催上の工夫

<会場イメージ（研修のチーム配置、レイアウト）>



8. 開催上の工夫

＜実際の会場＞



9. 開催テーマ：品質分析力 1st

1st

2018/02 ~ 2018/10
167名 95% 14回

◆開催目的◆

プロジェクト遂行における **Q C D分析・報告スキルの向上**を目指す。報告事例の**工程別品質見解の理解、分析ならびにチームメンバーでの意見交換・共有**を通し、自身の担当プロジェクトを円滑に遂行できるスキルへと繋げる。

◆題材◆

実在プロジェクトの出荷審査における品質分析資料

9. 開催テーマ：品質分析力 2nd

2nd

2018/11 ~ 2019/5

171名 94% 11回

◆開催目的◆

全社提供の品質演習問題を**個人・チームで分析・検討**し、
『**客観的事実把握力**』と『**QCD表現力**』を習得する。
さらに担当プロジェクトを円滑に遂行できる
マネジメント力のスキルアップへと繋げる。

◆題材◆

全社品質教育教材

10. 施策実施ロードマップ（1st / 2nd 実績）

1st

品質を担保(語れる)組織風土の醸成(底上げ)

2018/02
～ 2018/10 ⇒ 品質分析資料の理解と分析、分析手法を学習する

167名 95% 14回

2nd

品質データの収集/分析(対策)サイクルの定着

2018/11
～ 2019/5 ⇒ 品質会計(※)データから、品質状況を分析し、課題と対策を掘り下げる

171名 94% 11回

(※) NECの品質管理手法

10. 施策実施ロードマップ（1st / 2nd 実績）

1st プロジェクト審査会の合格率

年度		2018	2019	変化	
全体	合格	60.9%	64.5%	↑	3.6%
	条件付き合格	32.5%	32.7%	→	0.2%
	不合格	6.6%	2.8%	↓	-3.8%
A部門	合格	31.8%	64.7%	↑	32.9%
	条件付き合格	59.1%	35.3%	↓	-23.8%
	不合格	9.1%	0.0%	→	-9.1%
B部門	合格	26.4%	67.3%	↑	40.9%
	条件付き合格	49.1%	30.9%	↓	-18.2%
	不合格	24.5%	1.8%	↓	-22.7%

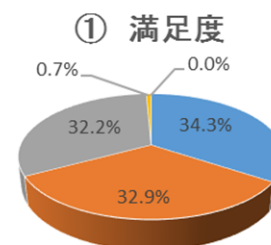
1 1. 開催テーマ：品質分析力 1st アンケート結果

<アンケート結果 1st>

3. 本教育を受講してみて

①満足度

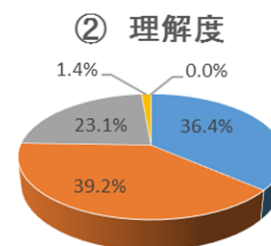
満足	49	245.0		34.3%	67.1%
やや満足	47	188.0		32.9%	
普通	46	138.0		32.2%	
やや不満	1	2.0		0.7%	
不満	0	0.0		0.0%	



■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

②理解度

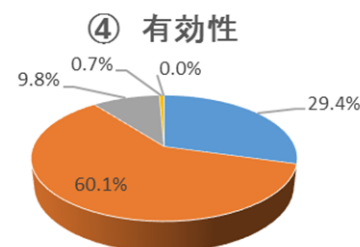
理解できた	52	260.0		36.4%	75.5%
やや理解できた	56	224.0		39.2%	
普通	33	99.0		23.1%	
やや理解できない	2	4.0		1.4%	
理解できない	0	0.0		0.0%	



■ 理解できた ■ やや理解できた ■ 普通 ■ やや理解できない ■ 理解できない

④有効性

強くそう思う	42	210.0		29.4%	89.5%
そう思う	86	344.0		60.1%	
普通	14	42.0		9.8%	
そう思わない	1	2.0		0.7%	
全くそう思わない	0	0.0		0.0%	



■ 強くそう思う ■ そう思う ■ 普通 ■ そう思わない ■ 全くそう思わない

1 1. 開催テーマ：品質分析力 1st アンケート結果

<参加者コメント>

1st

- ・グループが少人数(2～3人)だったので**発言しやすかった**です。
- ・**ざっくばらんな議論**ができて良かったです。
- ・**他メンバの意見**等を聞くことができ、考え方を分析時に生かしていきたいと思います。
- ・**品質分析は多角的**に行うことで、本当の問題点にたどり着くと他グループの発表を通じて感じた。
- ・**時間がコンパクト**なのも参加しやすくてよいと思います。
- ・**自担当PJにも活かせる**部分もあった。
- ・同じグループでも**経験年数のばらつきで意見が相違**することもあったが、逆にいえば**経験豊富な方々の意見**をたくさん聞けたのでよかった。
- ・**事業部長の講評が参考**になりました。

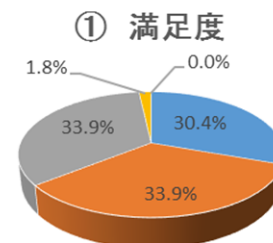
1 1. 開催テーマ：品質分析力 2nd アンケート結果

<アンケート結果 2nd>

3. 本教育を受講してみて

①満足度

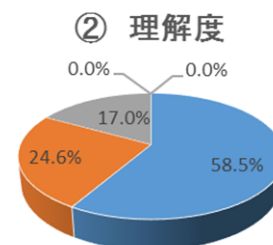
満足	52	260.0		30.4%	
やや満足	58	232.0		33.9%	64.3%
普通	58	174.0		33.9%	
やや不満	3	6.0		1.8%	
不満	0	0.0		0.0%	



■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

②理解度

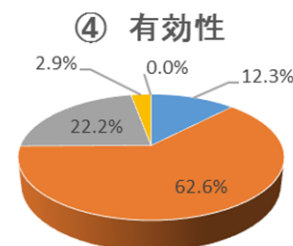
理解できた	100	500.0		58.5%	
やや理解できた	42	168.0		24.6%	83.0%
普通	29	87.0		17.0%	
やや理解できない	0	0.0		0.0%	
理解できない	0	0.0		0.0%	



■ 理解できた ■ やや理解できた ■ 普通 ■ やや理解できない ■ 理解できない

④有効性

強くそう思う	21	105.0		12.3%	
そう思う	107	428.0		62.6%	74.9%
普通	38	114.0		22.2%	
そう思わない	5	10.0		2.9%	
全くそう思わない	0	0.0		0.0%	



■ 強くそう思う ■ そう思う ■ 普通 ■ そう思わない ■ 全くそう思わない

1 1. 開催テーマ：品質分析力 2nd アンケート結果

<参加者コメント>

2nd

- ・パッと見て課題が把握できなかった演習でもグループで**他の方の意見をきっかけに気づき**を得られました。
- ・自分は**担当**であり、品質分析について**あまり触れたことがないため、参考**になりました。
- ・管理職・主任・担当交えてのチーム編成はとても良いと思います。**管理職の方や上の年次の方の意見**を聞くと、**自分では思いつかなかった観点も知る**事ができて勉強になります。
- ・自分では考えられなかったポイント、**皆で議論することで他の人の見解に気付く**ことができ、有意義な時間でした。
- ・主任層は**新しい気づき**があったようで有効な検討会であったと思います。あとは**品質分析を定着**させることと、分析工数を効率化するための手法、ノウハウの教育があるとありがたい。

1 2. 開催テーマ：作業ミス撲滅 3rd

3rd

2019/05 ~ 2019/09
160名 94% 13回

◆開催目的◆

当社障害事例 2 件(作業ミス)をチームで分析し、

『作業ミスを発生させた原因』

『今後のPJ遂行作業に向けた教訓』

『**教訓を活かす上での課題(実情)と対策**』

を検討・共有し、PJ遂行上の注意喚起に繋げる。

◆題材◆

社内共有情報

1 2. 開催テーマ：作業ミス撲滅 3rd

<作業品質向上ナビ>

作業品質向上ナビ

作業品質は、作業者のスキルではなく、

作業手順書の内容 と **作業時の基本動作の徹底** によって担保する

作業品質向上のための七原則

- 1.
- 2.
- 3.
4. 作業ミスに起因した障害を発生させないため
- 5.
6. に守るべき基本動作を七原則として公開
- 7.

作業品質向上プロセスガイド を確認

目的別index

 作業をおこなう前に知っておきたい	 作業ミスを起こしてしまった！
 事例を知りたい／おすすめ	 作業ミス発生状況

<心理的安全性紹介>

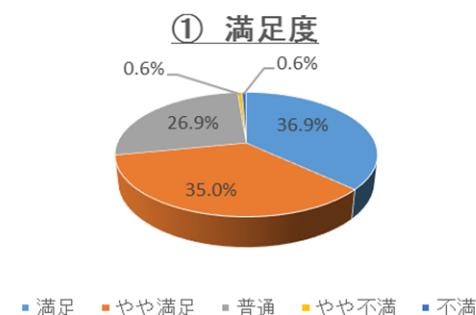


The screenshot shows a web browser displaying the Bizhint website. The URL is <https://bizhint.jp/keyword/101187>. The page title is '心理的安全性が職場にも...'. The main heading is '心理的安全性とは'. The text explains that psychological safety is a state where team members can express their thoughts freely and take actions without fear of negative consequences. It mentions that this concept was introduced by Amy C. Edmondson of Harvard Business School in 1999. The text states that psychological safety is defined as a shared belief within a team that it is safe to take interpersonal risks. This belief is based on mutual respect and trust among team members.

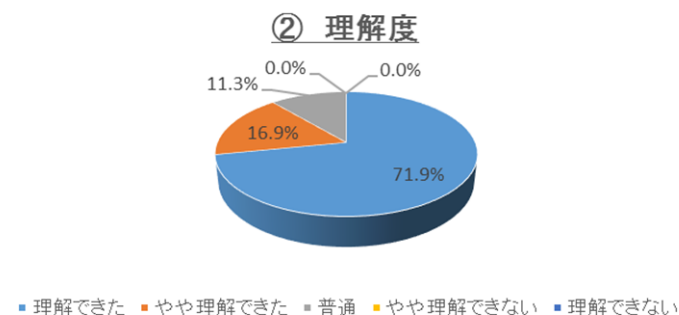
1 2. 開催テーマ：作業ミス撲滅 3rd アンケート結果

<アンケート結果 3rd>

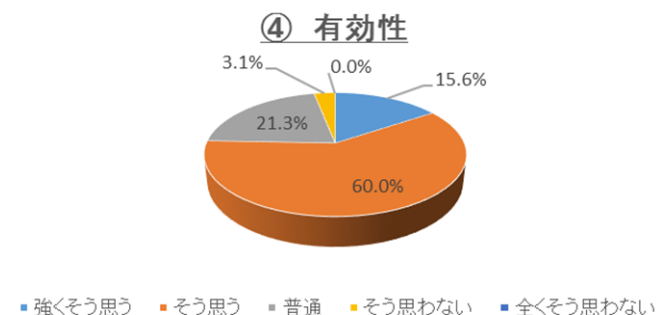
3. 本教育を受講してみて					
①満足度					
満足	59	295.0		36.9%	36.9%
やや満足	56	224.0		35.0%	71.9%
普通	43	129.0		26.9%	98.8%
やや不満	1	2.0		0.6%	
不満	1	1.0		0.6%	



②理解度					
理解できた	115	575.0		71.9%	71.9%
やや理解できた	27	108.0		16.9%	88.8%
普通	18	54.0		11.3%	100.0%
やや理解できない	0	0.0		0.0%	
理解できない	0	0.0		0.0%	



④有効性					
強くそう思う	25	125.0		15.6%	60.0%
そう思う	96	384.0		60.0%	75.6%
普通	34	102.0		21.3%	96.9%
そう思わない	5	10.0		3.1%	
全くそう思わない	0	0.0		0.0%	



1 2. 開催テーマ：作業ミス撲滅 3rd アンケート結果

<参加者コメント>

3rd

- ・本番環境が使える中で作業していると身近に起こりうる人的ミスなので、教育を受けてあらためて考えることで**気持ちが引き締められます**。
- ・自身の担当業務でもありそうな障害事例だったので、**教訓として常に意識**しておきたい内容でした。
- ・チームで検討すると**他のメンバーの意見、考え方は**やはり自分とは違うところがあるので**新しい発見があり**良かったです。
- ・少人数のチーム構成でよかった。**少人数だと一人ひとりが考えなくてはならない**ので、よい取り組みだと思います。
(チーム人数が多いと一人くらいがさぼっても成立してしまう)
- ・**違う部門の方から、こんな工夫**をしています、という話が**聞けて良かった**と思います。
- ・**事業部長、事業部長代理の意見がとても参考**になりました。

1 3. 施策実施ロードマップ（3rd 実績）

1st

施策受講者担当プロジェクト
では作業ミスは発生せず！

2nd

3rd 未受講者担当プロジェクト
で作業ミス発生

3rd

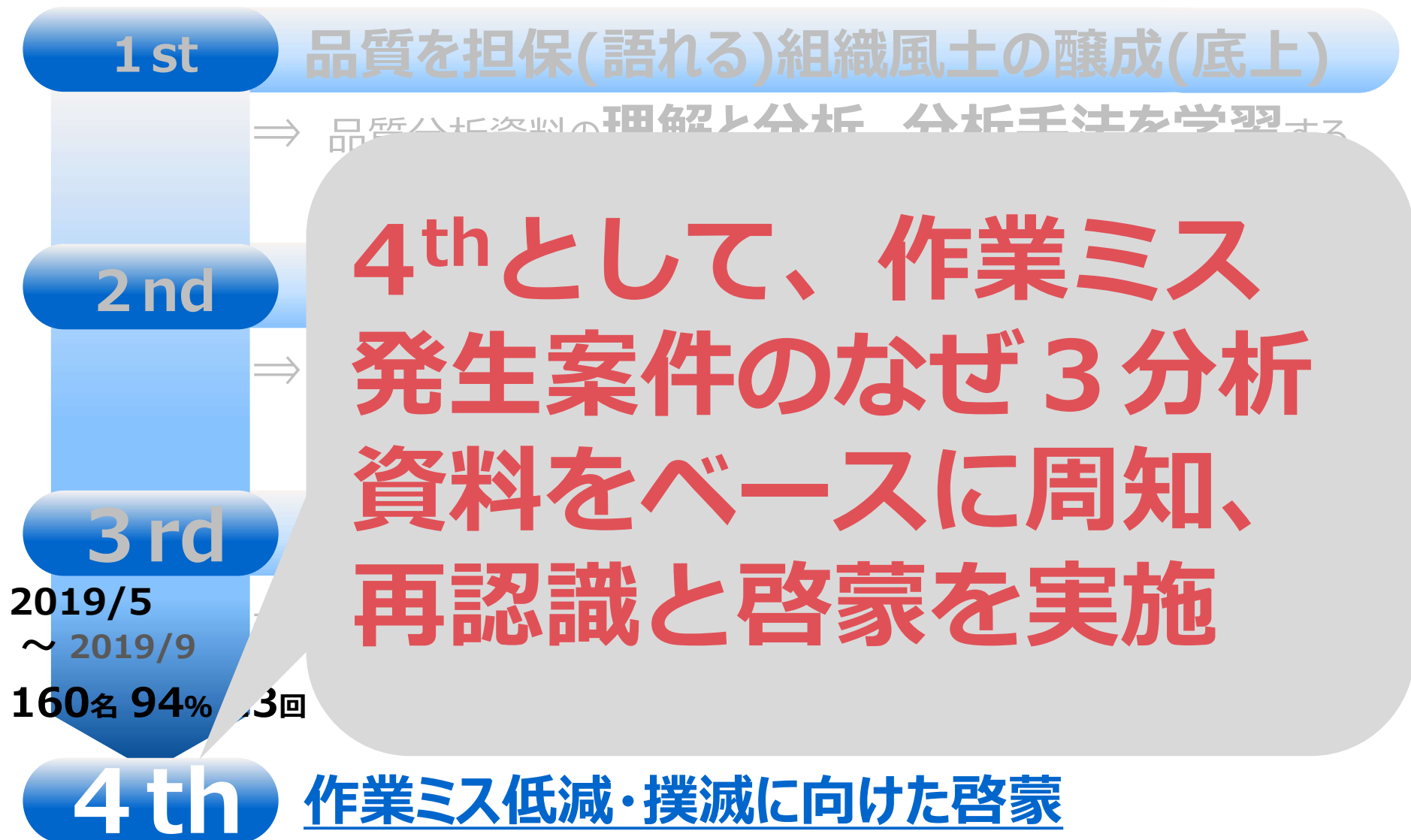
顧客満足（品質）向上

2019/5
～ 2019/9

160名 94% 13回

⇒ 作業ミス低減・撲滅を実現し、顧客に迷惑をかけない
作業品質実現を考える

1 3. 施策実施ロードマップ（4th 実施へ）



1 4. 開催テーマ：作業ミス撲滅 4th

4th

2019/10 ~ 2020/02
121名 67% 11回

◆開催目的◆

障害事例のなぜ 3 資料を分析し、

『なぜ障害が発生したか』『得られた教訓は』

『**教訓を活かすための課題(個人・組織)と対策**』を
検討・共有、さらに

『**発表後の 気づきの共有、振り返り、深掘り**』で
真因を掘り下げ、今後のPJ遂行上の気づきに繋げる。

◆題材◆

社内共有情報

**作業ミス
案件のなぜ 3 分析資料**

1 4. 開催テーマ：作業ミス撲滅 4th

4th

2019/10 ~ 2020/02
121名 67% 11回

◆開催目的◆

障害事例のなぜ 3 資料を分析し、

『なぜ障害が発生したか』『得られた教訓は』

『**教訓を活かすための課題(個人・組織)と対策**』を
検討・共有、さらに

『**発表後の 気づきの共有、振り返り、深掘り**』で
真因を掘り下げ、今後のPJ遂行上の気づきに繋げる。

◆題材◆

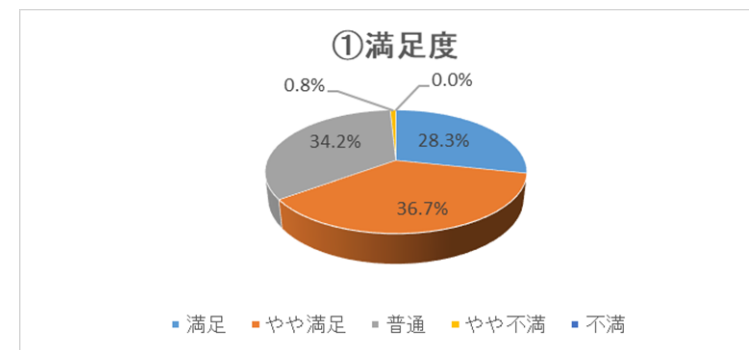
社内共有情報

**コロナ禍における新たな
開催形態の模索急務！**

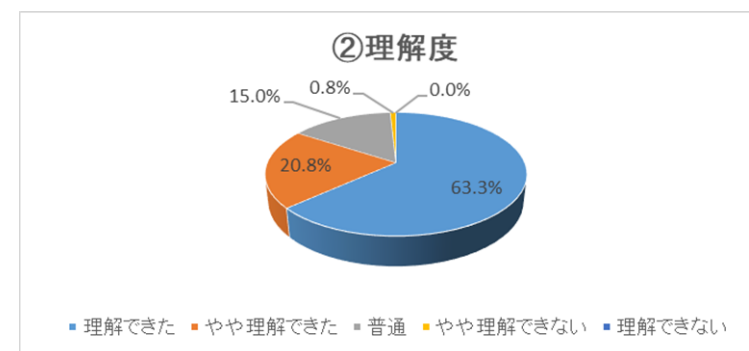
14. 開催テーマ：作業ミス撲滅 4th アンケート結果

<アンケート結果 4th>

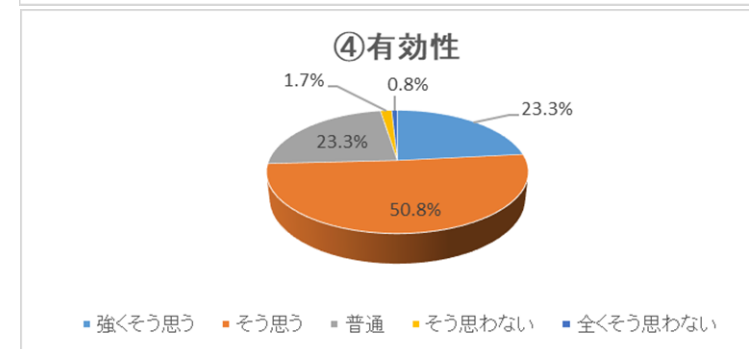
3. 本教育を受講してみて					
①満足度					
満足	34	170.0		28.3%	36.7%
やや満足	44	176.0		36.7%	65.0%
普通	41	123.0		34.2%	99.2%
やや不満	1	2.0		0.8%	
不満	0	0.0		0.0%	



②理解度					
理解できた	76	380.0		63.3%	63.3%
やや理解できた	25	100.0		20.8%	84.2%
普通	18	54.0		15.0%	99.2%
やや理解できない	1	2.0		0.8%	
理解できない	0	0.0		0.0%	



④有効性					
強くそう思う	28	140.0		23.3%	50.8%
そう思う	61	244.0		50.8%	74.2%
普通	28	84.0		23.3%	97.5%
そう思わない	2	4.0		1.7%	
全くそう思わない	1	1.0		0.8%	



14. 開催テーマ：作業ミス撲滅 4th アンケート結果

<参加者コメント>

4th

- ・対策が適用しにくい場合に**具体的施策を検討・実践**する
- ・やはり人には**ゆとり（余裕）が必要**
- ・**上位層の方ほど、心理的安全性を**意識してほしい
- ・**作業ミスによる会社への影響**も情報共有すべき（**心に響く**）
- ・『**失敗学**』で**分析**したらどうなるのか気になった
- ・自分のP Jだったら正しい判断ができていたのか考えさせられる
- ・**作業する人だけ大きなリスクを負っている**感じがする
- ・当たり前のことを当たり前できない原因の分析も必要
- ・**課題を抱え込まず早く周りを巻き込み**解決策を見つける
- ・話し辛い、忙しそうという**躊躇無しにP Jや上司と情報共有**
- ・体制、働き方、雰囲気、**品質以前の体制やモラル的な問題**あり

< トップの現状把握、指導と伝達 >

- ・ 社員の**知識、スキルレベルの把握**
- ・ **現場の意識レベル**確認
- ・ **現場の本音、課題**の把握
- ・ 組織 **トップからのメッセージ配信**の場

<開催の効果～アンケート結果>

- ①  **参加意識**を高め、自身の考えを発言できる
- ②  自身の理解度・考え方に**他者から意見**をもらう
- ③  他者との意見交換で**自身の考えの発信**を楽しむ
- ④  部門内外、他業種担当者の**交流を実現**(マンネリ防止)
- ⑤  経験豊富な先輩との**意見交換機会**(発見の機会提供)

メンバーの積極的参加姿勢と意見交換活性化

アンケート結果をもとに
随時運営内容をブラッシュアップ！

17. 今後について（5th以降の遂行に向けて）

（検討継続）

■自ら考えて行動できる **人間力・個人力 育成**

■**心理的安全性**に裏付けされた **組織力向上**

■**権限移譲**で **若手育成・自律意識向上**

■**対応力を鍛錬する施策へ**

18. 考察

■教育受講により作業ミス抑止知識は保有

⇒知識の実践の過程で漏れてしまう？

～ 作業慣れ・麻痺、緊張感の薄れ？ 検討十分？

■各種チェックリストは整備されている

⇒チェックリストは本当に有効か？

～ チェック作業が仕事？ チェックの本質は？

■組織のサポートは実施できている

⇒心(本音)を聞き出せているか？

～ 知らなかった、は知ろうとしない者の怠慢？

...*to be continued*



見えない未来は、 ここで見つける。

あなたの安心のために、あなたの夢見るチカラのために、
あなたの暮らしの土台になりたい。

私たちはまだ見ぬ課題もここで発見し、
ICTをとおして笑顔が生まれる世の中を
創造していきます。

NECソリューションイノベータ

 **Orchestrating** a brighter world

NEC